

在宅医療・介護連携推進協議会	協議資料
令和8年5月22日	
市役所 302 会議室	

令和8年度 第1回
立川市在宅医療・介護連携推進協議会
協 議 資 料

令和8年5月22日（金）

報告事項①

令和8年度 在宅医療・介護連携推進協議会 スケジュール・内容予定（案）

第1回 令和8年5月22日（金） 13:30～15:00 302 会議室
令和7年度実施事業報告及び令和8年度実施事業について

第2回 令和8年9月2日（水） 13:30～15:00 302 会議室
医療・介護フェス実施報告

第3回 令和8年11月25日（水） 13:30～15:00 101 会議室
認知症サポート検診事業の進捗状況について
「立川市高齢者福祉介護計画」策定の進捗状況について

第4回 令和9年2月5日（金） 13:30～15:00 101 会議室
令和8年度実施事業報告及び振り返りについて
令和9年度在宅医療・介護連携推進協議会について

全回共通事項

在宅医療・介護連携推進事業実施における課題の協議

報告事項②

令和7年度 医療と介護の連携強化に関する多職種研修事業 実績報告				
目的	高齢者を支える医療職及び介護職が互いの制度や知識を理解するとともに、それぞれの課題について共通認識を深め、医療と介護が連携したサービス提供がスムーズに行える			
対象者	立川市に所在する事業所等に所属する医療介護関係職種等 （医師、歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、ヘルパー、地域包括支援センター、行政等）			
委託先	立川市医師会			
出席者 合計	240 人（第1回から第5回までの延べ人数）			
内容	開催回数	テーマ/講師（敬称省略）	会場	人数
	第1回 (12/2)	大規模災害に備えて	市役所 101 会議室	55
		東京都医師会理事 小平祐造		
	第2回 (12/11)	避難要支援者について	市役所 302 会議室	59
		東京都保健医療局医療政策部 災害医療担当課長 上村淳司		
	第3回 (1/13)	腎不全、人工透析、在宅腹膜透析、腎不全終末期の緩和ケア	市役所 101 会議室	51
		共済立川病院 医師 二木功治 立川市医師会 医師 荘司輝昭		
	第4回 (2/26) ※1	（第3回）立川北口駅前クリニック 院長 石原理裕 （第4回）幸町腎クリニック 院長 渡辺賀寿雄	三多摩 労働会館 大会議室	46
		（第3回）立川北口駅前クリニック 院長 石原理裕 （第4回）幸町腎クリニック 院長 渡辺賀寿雄		
	第5回 (3/13)	これからの在宅医療を考える※2	立川市 医師会館 3階会議室	29
		医師 荘司輝昭		
	※1 第4回は当初2月6日に予定していたが、解散総選挙のため、会場や日程の調整をして開催した。			
※2 第5回は訪問看護従事者を対象に開催。				

内容等	【第1回】 地震だけでなく水害等も含めた大規模災害に備え、避難所や在宅避難を想定した内容を確認した。 非常時の連絡体制や災害関連死を防ぐために多職種の連携が不可欠な事について意見交換がされた。 【第2回】 第1回に引き続き災害をテーマに「東京におけるこれからの災害医療」について、東京都における災害医療体制を学んだ。 現時点で想定される東京の被害や災害関連死について取り上げた。 【第3回】 腎臓診療や腎代替療法診療の基礎編と位置づけ、腎臓のはたらきや慢性腎障害について、また検尿の重要性や腎代替療法診療尾について研修が行われた。 最後に、立川北口駅前クリニック院長石原理裕医師の総評があった。 【第4回】 終末期透析医療、特に在宅における透析医療について荘司輝昭医師が講義を行った。 続いて、腎臓診療や腎代替療法診療と在宅診療について共済立川病院二木功治医師による講義を行った。前回の基礎編の復習と具体例をあげながら腎代替療法や在宅での療養について学びを深めた。 最後に、幸町腎クリニック院長渡辺賀寿雄による総評があった。 【第5回】 訪問看護に係る職種向けに、在宅医療について研修を行った。 在宅医療の現状を理解した上で、多職種連携の役割や連携方法について講義を行い、訪問看護の問題点について意見を交換した。 また、令和8年度に予定される診療報酬改定の中で特に訪問看護に関わる部分について現時点でわかっていることその中で特に注意しなくてはならない事項などの説明、質疑応答があった。
-----	--

報告事項③

令和7年度 市民啓発シンポジウム事業 実績報告	
目的	医療・介護連携におけるACP（アドバンス・ケア・プランニング）や高齢化社会における医療・介護との関わり方、ヘルスリテラシーなどを広く周知啓発する
主催	立川市医師会、立川市
共催	立川市歯科医師会、立川市薬剤師会
概要	第1部 スペシャル対談「これからの超高齢社会を生き抜く」 第2部 映画上映 僕とケアニンとおばあちゃんたちと 日 時：令和7年9月28日（日）9：30～12:35 （認知症サポート検診普及啓発事業 オレンジフェスと同時開催） 場 所：たましん RISURU ホール 大ホール 参加者：258名 第1部では立川市で在宅医療に取り組む井尾医師・荘司医師が現状と課題について講演した。 また柳田氏が「老いること」や「死」について自身の経験やこれまでの取材から具体例を交えて講演、川越厚医師も登壇し対談した。 第2部ではドキュメンタリー映画「僕とケアニンとおばあちゃんたちと。」を上映した。普段医療や介護に関心の薄いといわれる、若者や家族連れの参加があり、その世代に対し普及啓発に繋がった。

報告事項④

令和7年度 立川市出張暮らしの保健室 実績報告							
事業目的	事前予約不要・匿名で気軽に相談できる機会を市民に提供し、個別健康相談の習慣づけ、疾病予防の啓発を目指す						
委託先	立川市訪問看護連絡会						
令和7年度 実績	■実施一覧						
	通し 番号	日程	団体の名称	地区	来場 数	相談 件数	講座テーマ(一部要約)
	1	5/10	にんカフェinふじみ	1	18	2	フレイル・サルコペニア予防
	2	5/10	多摩川団地お茶のみサロン	1	19	8	お薬の話「お薬を正しく知って正しく使いましょう！」
	3	9/28	オレンジフェス	2	7	4	認知症と共に生きる・認知症の症状とくすり
	4	10/28	栄町ぐっとネイバーをすすめる会	4	5	3	睡眠と薬、簡単な運動(眠れるような運動)
	5	10/21	立川パーキンソン病友の会	3	21	3	運動のコツと暮らしのヒント
	6	10/26	新栄自治会	5	10	1	フレイル予防の口腔体操、健康寿命を延ばす食事
	7	12/20	都営立川団地お茶のみサロン	5	18	8	高齢者が冬に気をつけたい健康管理
	8	12/6	多摩川団地お茶のみサロン	1	17	3	もしバナゲーム・自分の価値観を確認する
	9	3/27	栄町グッドネイバーをすすめる会	4	6	6	帯状疱疹とは(症状、前兆、薬、予防 他)
	10	2/13	ケセラセラ(体操教室)	2	20	3	認知症になりやすい疾患や受診・薬を飲み始める時期
	11	3/4	にんカフェ@スマイルキッチン with リモート	5	9	9	摂食嚥下(飲み込み・口腔ケアなど)
	12	3/17	若葉町団地自治会	4	18	2	訪問診療について
					168	52	
■年間来館者人数等 (延べ) 来館者数 168 人 (昨年 170 人) 相談件数 52 件 (昨年 57 件) ■年間従事専門職 (延べ) 看護師 20 人 医師 1 人、薬剤師 10 人 理学療法士 4 人、言語聴覚士 1 人							
1 地区：富士見町、柴崎町 2 地区：羽衣町、錦町 3 地区：高松町、曙町、緑町 4 地区：若葉町、栄町 5 地区：幸町、柏町、砂川町、泉町 6 地区：上砂町、一番町、西砂町							

令和 7 年度 の取り組み	令和 7 年 1 月より立川市訪問看護連絡会と協議の上、実施手順を整理・変更し、新たにマニュアルを作成した。申込に関しては、地域と密接な関係のある、包括支援センターまたは地域福祉コーディネーター（兼生活支援コーディネーター）が行い、執務の調整は訪問看護連絡会が行った。 市民のニーズは、看護職だけでなく、医師や歯科医師、理学療法士など専門職からの、より具体的な医療・介護の話にある。委託先である訪問看護連絡会が、多職種への調整を行い、令和 7 年度はすべての要望に応えることができた。 開催回数は、地域によって偏りがあるが、地域性もふまえて市民の健康づくりに役立つ事業を継続したい。
------------------	--

報告事項⑤

令和 7 年度 認知症初期集中支援チーム事業・アウトリーチチーム事業 実績報告																										
目的	認知症が疑われるが適切なサービスや医療に繋がっていない方を対象に、認知症サポート医をはじめとした専門職がチームとなり、早期診断・早期治療に向けた支援体制を構築する																									
令和 7 年度 実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th><th colspan="2">認知症相談</th><th rowspan="2">初期集中支援 チーム員会議</th><th rowspan="2">認知症 アウトリーチ</th></tr> <tr> <th>新規件数</th><th>継続件数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北エリア</td><td>3</td><td>10</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr> <td>南エリア</td><td>31</td><td>29</td><td>0</td><td>1</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>34</td><td>39</td><td>0</td><td>2</td></tr> </tbody> </table> 初期集中支援チーム事業・アウトリーチチーム事業ともに、事業の活用を進めるため、認知症相談の時点でも、サポート医等に相談ができる「ミニ懇談会」ができるように変更（令和 8 年度より）					認知症相談		初期集中支援 チーム員会議	認知症 アウトリーチ	新規件数	継続件数	北エリア	3	10	0	1	南エリア	31	29	0	1	合計	34	39	0	2
	認知症相談		初期集中支援 チーム員会議	認知症 アウトリーチ																						
	新規件数	継続件数																								
北エリア	3	10	0	1																						
南エリア	31	29	0	1																						
合計	34	39	0	2																						

報告事項⑥

令和7年度 東京都在宅療養推進事業「在宅療養推進研修」について	
目的	地域において在宅療養の中心的な役割を担う人材（在宅療養地域リーダー）を育成し、地域の在宅療養推進の取組を促進させること。
研修概要	日 時：令和8年2月24日（火曜日）18時から20時30分まで 開催方法：web会議によるオンライン開催 ※立川市参加者は市役所210会議室に参集 立川市参加者（敬称省略） ・薬剤師：有限会社根本 はる薬局 根本 陽充 ・診療看護師：@訪問看護ステーション 齋竹 一子 ・介護福祉士：有限会社ダイワケアサービス 市原 謙一郎 ・ケアマネージャー：学研ココファン立川 高橋 友美 ・在宅医療・介護相談窓口担当：水村 安代 ・行政職員：八坂 里加
研修内容	講義1 フレイル対策は地域づくり～早期予防からハイリスク対応まで～ 講義2 地域でのフレイル対策の課題と解決策 グループワーク、発表、振り返り、総括

報告事項⑦

地区健康フェアにおける「ACP」意識調査について	
目的	昨年度に引き続き、市民がその程度 ACP(人生会議)について理解し、備えているかを明らかにするため、意識調査を行う。また、昨年度と同様の質問をすることで経年変化を比較するとともに、「人生の終わり方を考えたことがある」方に、その思いを周囲に伝えていくことの重要性をお伺いすることで、さらなる普及啓発のポイントを考察する機会とする。
調査方法	男女別に最大4つの設問についてシールアンケートにて回答いただいた。 設問1：「ACP（人生会議）という言葉を知っていますか？」 設問2：「人生の終わり方について考えたことがありますか？」 ※以下は設問2で「ある」と答えた方を対象にした設問 設問3：「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」 設問4：「設問3について、どれくらい大切だと思いますか？」 ※設問4のみ、10段階評価の回答 なお、来場者によってはすべての質問に回答していない場合もあり、各設問の回答者数は必ずしも一致しない。

対象：12 か所(富士見・柴崎・錦・羽衣・高松・曙・若葉・栄・幸・柏・砂川・西砂)の地区健康フェア

設問 1：「ACP（人生会議）という言葉を知っていますか？」

	地区	回答者数	男性		女性	
			知っている	知らない	知っている	知らない
1	富士見	38	1	15	2	20
2	柴崎	43	1	11	2	29
3	錦	36	2	13	3	18
4	羽衣	32	0	8	5	19
5	高松	23	1	10	2	10
6	曙	18	0	5	2	11
7	若葉	41	1	9	4	28
8	栄	13	1	3	4	5
9	幸	56	1	18	2	35
10	柏	30	0	9	6	15
11	砂川	40	5	5	8	22
12	西砂	30	2	6	4	18
	合計	400	15	112	44	230

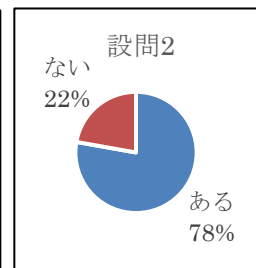
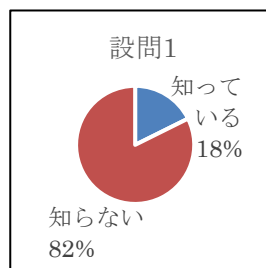
調査結果

設問 2：「人生の終わり方について考えたことがありますか？」

	地区	回答者数	男性		女性	
			ある	ない	ある	ない
1	富士見	38	12	4	15	7
2	柴崎	43	10	2	29	2
3	錦	33	7	5	9	12
4	羽衣	32	4	4	22	2
5	高松	23	7	4	11	1
6	曙	18	5	0	11	2
7	若葉	41	7	2	26	6
8	栄	12	3	1	7	1
9	幸	56	16	3	32	5
10	柏	30	5	4	12	9
11	砂川	40	9	1	26	4
12	西砂	30	3	5	20	2
		396	88	35	220	53

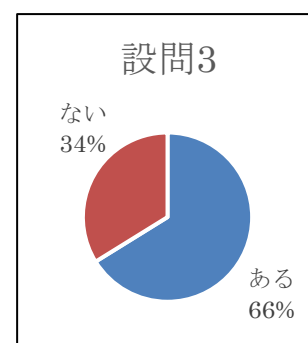
設問 1・2 集計（男女合計）

設問	回答	人数
設問 1 ACP という言葉をしっ ているか	知っている	59
	知らない	275
設問 2 人生の終わりについ て考えたことがあるか	ある	308
	ない	88

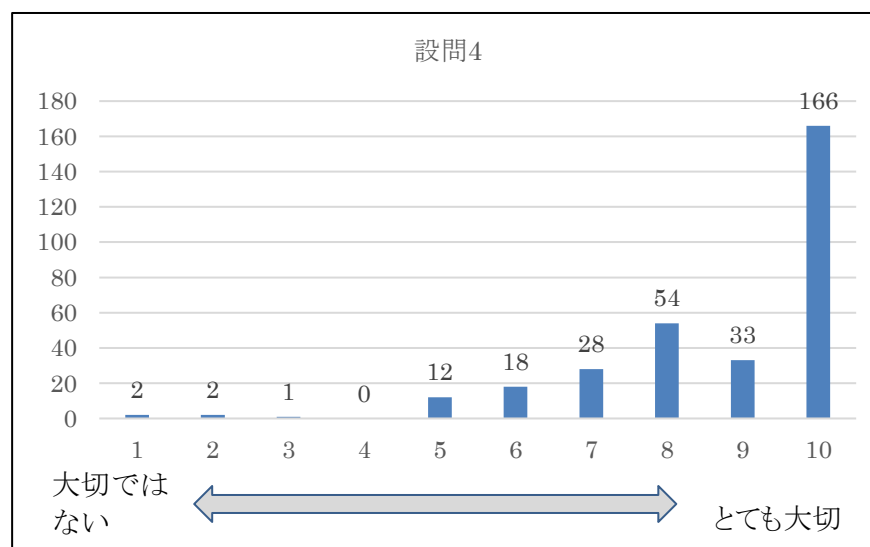


設問 3：「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか？」

	地区	回答 者数	男性		女性	
			ある	ない	ある	ない
1	富士見	38	8	8	15	7
2	柴崎	43	6	6	25	6
3	錦	28	6	6	10	6
4	羽衣	32	4	4	16	8
5	高松	18	5	2	9	2
6	曙	16	3	2	6	5
7	若葉	33	6	1	21	5
8	栄	10	2	1	6	1
9	幸	48	11	5	23	9
10	柏	16	2	2	9	3
11	砂川	35	5	4	20	6
12	西砂	30	1	2	6	14
		347	59	43	166	72



設問 4：「設問 3 について、どれくらい大切だと思いますか？」



考察	昨年度と比較し、設問 1:「ACP (人生会議) という言葉を知っていますか?」について、総回答者数は 376 から 400 に増加したが、「知っている」と回答した方の割合は、27%から 18%に減少。市民にとって、まだなじみのない言葉ということを再確認する結果となった。来たる 2050 年問題に向け、一人ひとりがあらかじめ自分の人生をどのように過ごしたいか考える必要性が高まっており、医療・介護・福祉が連携して啓発に努めていく必要がある。 設問 3:「人生の終わり方について誰かに話したことはありますか?」についても、「ある」と回答した方は昨年比 72%から 68%に減少。人によっては重いテーマと受け取る可能性もあり、日ごろ地域で行われている趣味等のサロン活動など、気軽に話し合える関係性ができている環境において話題に上がるよう、地域づくりに取り組む地域福祉コーディネーターとのより一層の連携が必要と考える。
-----------	---

令和 8 年度実施事業について

在宅医療・介護連携推進事業

① 医療と介護の連携強化に関する多職種研修事業

講演会形式・オープンディスカッション形式 年間で 5 回開催予定。
委託先の立川市医師会と協議の上、開催日程・内容等を検討する。

② 医療・介護フェス

超高齢社会における医療・介護との関わり方、ヘルスリテラシーなどを広く
周知啓発する。
(詳細は報告事項⑨)

③ 立川市出張暮らしの保健室

年間で 16 回開催可能。
構成はミニ講座と個別相談で、講師を含め 3 名の専門職が執務する。
地域包括支援センター・福祉相談センター・地域福祉コーディネーター等と
協力し開催回数・開催場所を増やし、0 次予防の推進を進める。

④ 在宅医療・介護資源情報の AyamU 掲載

健康推進課と連携し、年に 1 回医療機関・介護保険サービス事業所へ
情報更新のための電子アンケートを実施し、情報更新する。
(申し出があった場合は随時情報を更新) 令和 8 年度分は更新済み。

※ 「立川市地域包括ケアサイト AyamU (アヤム)」 :
官民連携の一環としてカシオ計算機株式会社が提供。
立川市は令和 7 年に情報を移行した。

Ayamu
二次元コード



⑤ 北多摩西部保健医療圏域内医療機関連携窓口情報の更新

医療機関関係者と介護関係者間の情報共有ツールとして北多摩西部保健医療圏域内医
療機関連携窓口情報を作成。
年度末から新年度にかけて、情報を更新し、立川市新任ケアマネ研修会等で配布。
令和 8 年度分は、更新済み。

(別紙 資料 2)

認知症施策推進事業

① 認知症サポーター養成講座

認知症の方とその家族を支え、誰もが暮らしやすい地域となるように開催。
立川市立小学校の全4年生を対象に実施している他、申込のあった市民や
依頼のあった企業・団体等向けに実施しており、講座の対象を拡大できるよう
検討を進めていく。

② 認知症サポーターステップアップ講座・活動連絡会

認知症サポーター養成講座を受講し、立川市でチームオレンジ活動を目指している方
（認知症の方や家族を支援したい、何か人の役に立ちたい等）を対象とした講座。
それぞれ1年に1回開催し認知症サポーター養成講座の修了生が地域で活動できる
ように取り組む。

③ 認知症初期集中支援チーム事業・アウトリーチ事業

認知症が疑われるが定説なサービスや医療に繋がっていない方が、早期診断・早期治
療につながるための事業であるが、年間数例の利用にとどまっている。
本事業の核となるチーム員会議で、日程の設定や様式の複雑さも要因としてあり、令
和8年度よりチーム会議の前段階で活用できるミニ懇談会の機会を設けた。

④ 認知症サポート検診事業

50歳以上の立川市民を対象に、認知機能の低下を早期に発見・対応し、安心して暮ら
せる地域づくりを目指す。市民は無料で受診。
（詳しくは報告事項⑩）

⑤ 認知症カフェにおける講師謝礼金補助金交付事業

昨年度は補助金の利用がないことから事業の在り方を検討していく。

報告事項⑨

医療・介護フェスについて	
目的	超高齢社会における医療・介護との関わり方、ヘルスリテラシーなどを広く 周知啓発する。
委託先	立川市医師会
内容	日 時 : 令和 8 年 5 月 31 日 (日曜日) 10 : 00 から 16 : 00 場 所 : サンサンロード 参加団体数 : 約 30 団体

報告事項⑩

認知症サポート検診事業について	
目的	50 歳以上の立川市民を対象に、認知機能の低下を早期に発見・対応し、安心して暮らせる地域づくりを目指す。無料。
委託先	立川市医師会
対象	50 歳以上の立川市民 ただし、以下は除外 ① すでに認知症の診断を受けている ② 1 年以内に本事業を利用している
内容	① 立川市に申込 ② 市から対象者に必要書類を発送（住所、本事業の受診歴等を確認） ③ （受診者が）指定医療機関を選んで、事前に連絡をする ④ 検診（医師から、結果を確認。必要時は、専門医へ紹介状を発行） ※ 結果は、本人の同意確認の上、市から包括支援センターへ情報提供を行い、必要があれば適切な支援を受ける。

報告事項⑪

「立川市高齢者福祉介護計画」策定について																		
内 容	■事前調査（アンケート） ① 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 配布数 3,000 件 有効回答数 1,593 件 有効回答率 63.1% ② 在宅介護実態調査 配布数 1,500 件 有効回答数 816 件 有効回答率 54.4% ③ 介護保険事業所向けアンケート調査 配布数 300 件 有効回答数 248 件 有効回答率 82.7% （別紙 資料3）																	
	■策定スケジュール <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和8年5月19日</td><td>第1回在宅医療介護連携推進協議会</td></tr> <tr> <td>～7月下旬</td><td>施策の方向性・取組内容の検討</td></tr> <tr> <td>9月2日</td><td>第2回在宅医療介護連携推進協議会</td></tr> <tr> <td>～10月下旬</td><td>計画の素案作成</td></tr> <tr> <td>11月25日</td><td>第3回在宅医療介護連携推進協議会</td></tr> <tr> <td>～1月下旬</td><td>計画の原案作成</td></tr> <tr> <td>令和9年2月5日</td><td>第4回在宅医療介護連携推進協議会</td></tr> <tr> <td>3月5日</td><td>議会報告</td></tr> </tbody> </table>	日程		令和8年5月19日	第1回在宅医療介護連携推進協議会	～7月下旬	施策の方向性・取組内容の検討	9月2日	第2回在宅医療介護連携推進協議会	～10月下旬	計画の素案作成	11月25日	第3回在宅医療介護連携推進協議会	～1月下旬	計画の原案作成	令和9年2月5日	第4回在宅医療介護連携推進協議会	3月5日
日程																		
令和8年5月19日	第1回在宅医療介護連携推進協議会																	
～7月下旬	施策の方向性・取組内容の検討																	
9月2日	第2回在宅医療介護連携推進協議会																	
～10月下旬	計画の素案作成																	
11月25日	第3回在宅医療介護連携推進協議会																	
～1月下旬	計画の原案作成																	
令和9年2月5日	第4回在宅医療介護連携推進協議会																	
3月5日	議会報告																	